

調査報告書

1. 活動の背景

世田谷区は、太子堂地区が震災時危険な地域であるとして、1980年防災街づくりのモデル地区に指定、密集市街地の整備事業を計画した。

82年、建設省から木造賃貸住宅地区総合整備事業(現密集市街地整備促進事業)、86年には国土庁から防災緑地網整備促進事業の適用を受けて建物の不燃化、狭隘道路の整備、広場・公園づくりを進め、現在までに不燃領域率を50%まで向上させる成果を挙げている。

ところが昨年3月、太子堂3丁目の国立小児病院跡地(33200㎡)を都市基盤整備公団が取得、また今年5月には東京都住宅供給公社の太子堂住宅(10700㎡)建替え計画が決定した。

太子堂2,3丁目地区の12%以上を占める土地の新しい開発計画の浮上に伴い、従来の地区街づくり計画および法定地区計画の見直しが必要になってきた。

このため、世田谷区は地域住民の要望を受けて今年3月に「国立小児病院跡地周辺まちづくり方針・計画」を決定、隣接する三宿2丁目の法務省研修所跡地などを含めた一帯(約12.7ha)を避難誘導ゾーンに指定して、将来広域避難場所とするための整備を行なうことにした。

これに伴い、国立小児病院跡地に新設される道路、そこから駅へ向かう道路、周辺からの避難アプローチなど、車の道路とは別の視線で歩行者を考えた道路整備が必要となってきた。

2. 活動の経緯と目的

H13年2月	坂口・厚生労働大臣に面談し小児病院跡地譲渡先について要望
H13年3月	区議会に防災拠点確保の請願
H13年5月～	区に働きかけ国立小児病院跡地周辺まちづくり懇談会を開催させる (H13年9月まで計5回)
H13年9月	都市公団に防災空地確保などの要望書提出
H13年9月～H14年3月	密集市街地におけるミニ共同溝設置に関する研究 (住宅生産団体連合会よりの補助)
H14年3月～	跡地環境汚染問題を取り挙げ厚生労働省と折衝
H14年7月	都市公団に防災空地確保などの要望書を再度提出
H14年10月～15年2月	跡地開発検討会議の開催(計8回、事務局の役割)
H15年2月	跡地開発検討会議通信第1号を発行(周辺全戸配布)
H15年3月～	跡地開発検討会議の休止を申し入れ (以後公団は周辺住民への説明会を数回開催)

- H15年4月 小児病院跡地解体終了後、環境汚染問題を再指摘
- H15年7月 国土交通省が太子堂地区を「暮らしのみちゾーン」のモデル地区に認定
- H15年9月 小児病院跡地隣接の都住宅供給公社建替えが表面化、話し合い開始
まちづくり計画の見直しを区へ要望
- H15年9月 勉強会を発足させ、国交省道路局地方・環境課の清水将之氏、同関東地方整備局道路部地域道路課の足立賢一氏から「暮らしのみちゾーン」事業の説明を受ける
- H15年10月 関東地方整備局地域道路課の榎引繁雄課長らと今後の事業化の展望などについて協議



図1 対象地区

対象とする地区は三軒茶屋駅に隣接しており、交通施設や商業施設への歩行者、自転車交通の多い地域である。土地利用は住居系が主の木造密集市街地であり、国・都の密集事業に先駆け修復型の防災まちづくりがすすめられている。また国立小児病院跡地において都市基盤整備公団による開発計画がすすめられている。この跡地周辺地区は、広域避難場

所の指定を目指すこと、周辺施設を一体的な避難誘導ゾーンとして形成する連絡経路を整備していくことが、跡地周辺まちづくり計画に盛り込まれている。

地区内の交通状況を見ると、狭隘な道路が残り、歩行者の安全が犯されている現状がある。今後、国立小児病院跡地周辺に新規道路が整備されるが、地区全体の外周となる幹線道路に未整備の部分があり、交通量も極めて大きいことから、道路整備後の通過交通の流入が懸念される。また地区街づくり計画にもとづく道路整備においても通過交通への対応が必要だろう。このようなことから、現状での問題対応だけでなく中長期的にも対象地区全体の交通静穏化を目指した計画づくり、まちづくりが求められる。

国立小児病院跡地開発の周辺地区を対象として国土交通省のくらしのみちゾーンに指定されたが、この研究会では開発周辺地区に限らず、三宿 1,2 丁目地区と太子堂 2,3 丁目地区全体を対象とする。

この地区にふさわしいみちのあり方について議論し、国立小児病院跡地の開発にともない整備される周辺道路、地区街づくり計画による 6m 道路（三太通り 円泉寺通り その他 6m 道路）の 4 路線と、地区内の区画街路を想定しながら、総合的なみちの整備方針を検討するものである。交通の問題だけでなく防災、生活など、さまざまな視点からみちを考える。

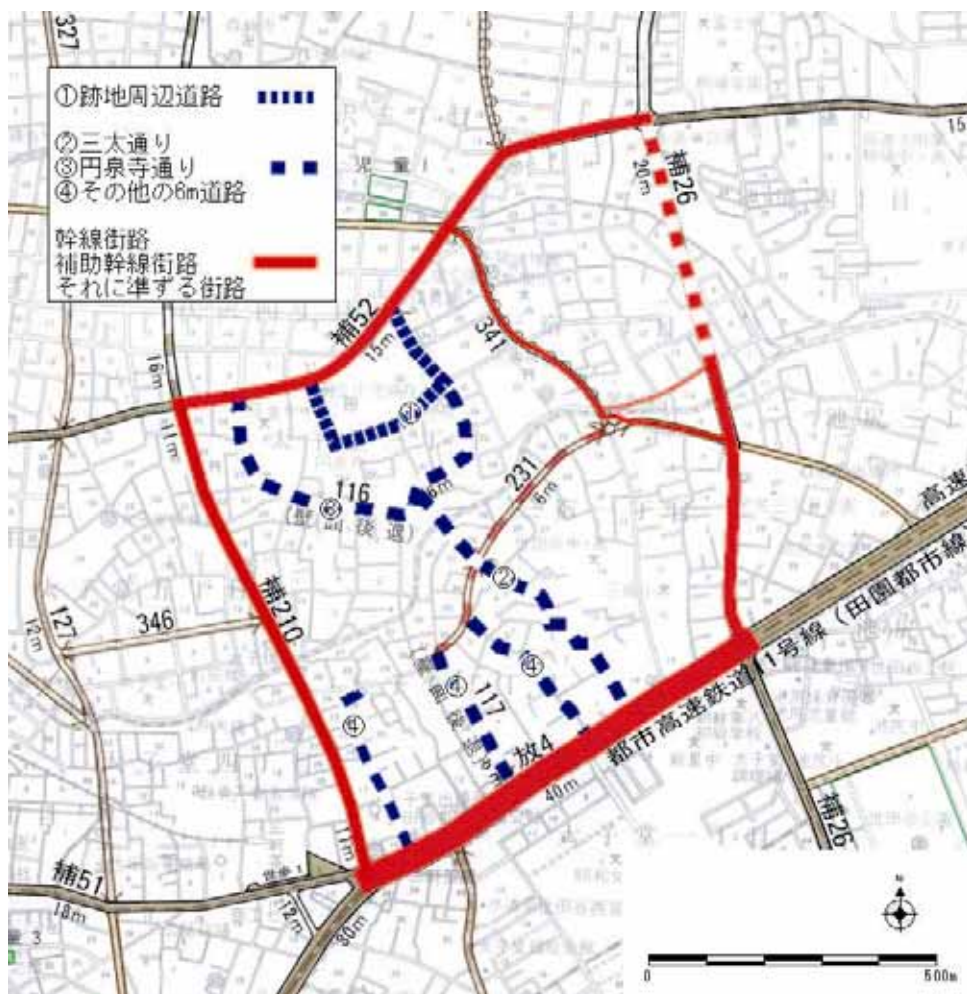


図2 対象となる道路

また、道路整備にあたっては、住民の立場から見ると住宅の敷地が狭小なためセットバックが容易でないこと、道路を拡幅すると通過交通量が増え、スピードアップによる交通事故が心配されることなどが道路整備事業に対する批判・抵抗の原因となっている。

しかし上記のような背景・経緯から、狭隘道路が多い太子堂において新しいタイプの生活道路の提案が出来ると、道路拡幅を優先する既存の整備手法と異なる展開の提案が可能となる。

具体的には、

)「通過交通問題」についての勉強会 (都立大学・秋山哲男教授)

)文京区千駄木地区の見学会

)太子堂の道チェックシートづくり

)くらしのみちに関するアンケート・ヒアリング調査

)太子堂のくらしのみち提案づくりワークショップ

を、国土館大学・寺内講師、都市計画プランナー桑沢氏の継続的なご協力で行うこととした。

3 . 活動の内容

3-1 活動の経緯

H15年10月24日	研究会準備会
H15年11月6日	久保田先生セミナー & 研究会準備会
H15年11月11日	旗の台見学会
H15年11月27日	協議会11月定例会
H15年12月5日	協議会運営会議
H15年12月9日	第1回研究会
H15年12月25日	協議会12月定例会
H16年1月9日	協議会運営会議
H16年1月16日	第2回研究会
H16年1月22日	協議会1月定例会
H16年1月27日	千駄木見学会
H16年2月2日	くらしのみちフェア
H16年2月12日	協議会運営会議
H16年2月16日	秋山先生セミナー
H16年2月20日	第3回研究会
H16年2月26日	協議会2月定例会
H16年3月6日	ワークショップ1日目
H16年3月13日	ワークショップ2日目
H16年3月19日	第4回研究会

3-2 活動の内容

全般の活動内容は、別添「活動記録」に記載しているので、ここでは主に研究会とワークショップ、セミナーおよび見学会について記すことにする。

第1回研究会 H15年12月9日(火) 場所;ウサギ小屋
出席者; 専門家4名、行政4名、太子堂住民4名、三宿住民1名、
傍聴1名 合計14名

今までの経過説明と今後の活動予定を打ち合わせした。

研究会は月1回で3月まで実施、それとは別に千駄木見学会・秋山先生勉強会・地区の
みちの調査をすることとした。(詳細は、別添議事録参照)

第2回研究会 H16年1月16日(月) 場所;ウサギ小屋
出席者; 専門家5名、行政4名、太子堂住民4名、三宿住民2名、
合計15名

前回研究会からの経過説明と今後の活動予定を打ち合わせし、日程を決定した。

ナンバープレート調査は出入り口が多いのでたいへん。それよりも現状と将来の課題に
ついて取り組む必要あり。

ひやりマップ(アンケート)について、配布先・依頼方法・調査票の内容・スケジュールを
討議し、決定した。

まち歩きは、3月6日(土)に実施と決めた。(詳細は、別添議事録参照)

千駄木見学会 H16年1月27日(火) 場所;特養「千駄木の郷」会議室
出席者; 専門家4名、行政3名、太子堂住民4名、三宿住民4名、
公団2名 合計17名



会議室でプロジェクトで説明を聞いた



その後、文京区職員の案内でまちを歩いた

くらしのみちフェア

H16年2月2日

場所;日本教育会館

参加者;梅津、吉田



分科会で地域の事例紹介をした。

秋山先生セミナー

H16年2月16日

H16年1月27日(火)

場所;ウサギ小屋

出席者; 専門家4名、行政3名、太子堂住民4名、三宿住民4名、
公団2名 合計17名



第3回研究会

H16年2月20日

場所;ウサギ小屋

出席者; 専門家4名、行政4名、太子堂住民4名、三宿住民5名、
公団3名(前半のみ) 合計18名

公団より小児病院跡地の敷地内新設道路の下記説明を聞いた。

三太通りアンケートについて勝又さんより報告があった。

研究会と両協議会の関係について梅津さんより報告があった。

ひやりマップ配布状況確認

まち歩き+アンケートまとめについて桑沢さんより説明があった。

電柱問題の長短を検証する意味で、定点観測(ビデオ撮影)も最低限の費用で行ってみることとした。

ワークショップ1日目

H16年3月6日

場所;ハウス

出席者; 専門家2名+学生8名、行政4名、太子堂住民5名、三宿住民3名、地区外2名 合計24名

内容については、1日目、2日目をまとめて、後述

ワークショップ2日目

H16年3月13日

場所;ハウス

出席者; 専門家4名+学生7名、行政2名、太子堂住民4名、三宿住民1名、地区外2名 合計20名

内容については、1日目、2日目をまとめて、後述

第4回研究会

H16年3月19日

場所;ウサギ小屋

出席者; 専門家4名+学生7名、行政2名、太子堂住民4名、三宿住民1名、地区外2名 合計20名

上記ワークショップの結果発表と提案まとめの討議を行った。4月以降の進め方について打ち合わせをした。

以降に、この研究会としての成果を添付する。

ヒヤリマップ&まちあるき 調査の方法と結果

【調査1】ヒヤリマップ調査

1. 目的：地区内の交通を中心とした危険箇所を探り、現状の問題を明らかにする。
問題の共有化をはかり、提案づくりに活かす
地域住民の協働・参加意識の向上

2. アンケートの内容

アンケートの内容（地図（A-3サイズ）と対照表を配布）

地域の中で危険と感じた個所を地図に示し（番号を付ける）、その危険箇所ごとに理由などを以下の表の様式に従ってご記入してもらいます。

立場を記入してもらいます。

自動車、自転車、歩行者

いつ、そのように思われましたか。

平日、休日 早朝、午前、午後、夕方、夜、いつも など

危険度評価レベル（どのくらいあぶないか）

ものすごくあぶない かなりあぶない すこしあぶない

対照表記入例

番号	危険な理由	いつ	危険度
A	荷捌き車が駐車していて、見通しが悪い	平日の午後	かなり
	商品のはみ出し	いつも	すこし
	歩道舗装が凸凹	いつも	かなり
	...		

属性：居住地

男女、年齢層

アンケート配布時のトリップ目的 買物 通勤・通学 帰宅 仕事 娯楽

交通手段 車 自転車 徒歩

集計に参加希望者の連絡先（氏名、住所、電話番号）

なお、アンケート調査票は付録に掲載します。

3. アンケートの被験者と配布、回収方法

小中学校（児童・生徒と保護者）

地域に住む世帯（協議会を通じて）

三太通り沿道世帯（三宿1丁目まちづくり協議会を通じて）

全体で ... 191 通回収 （3/13 現在）

4. ヒヤリマップ作成作業

アンケート配布

2 / 20 ~ （随時回収）

作業1日目（3 / 6 13 : 30 ~ 17 : 00）

歩行者・自転車・クルマの各立場でのヒヤリマップ作成

各立場でのヒヤリマップ報告

作業2日目（3 / 13 14 : 00 ~ 17 : 00）

追加されたアンケート票のプロット

まとめヒヤリマップ作成

（マップ作成終了後、随時、提案づくりへ合流）

これらの作業成果と作業風景の写真

<内容>

写真2 - 1 歩行者の立場でのヒヤリマップ

写真2 - 2 歩行者の立場でのヒヤリマップ

写真2 - 3 歩行者の立場でのヒヤリマップ

写真2 - 4 まとめヒヤリマップ

写真2 - 5 ヒヤリマップ作成風景

写真2 - 6 まとめヒヤリマップ発表風景

図2 - 1 まとめヒヤリマップ

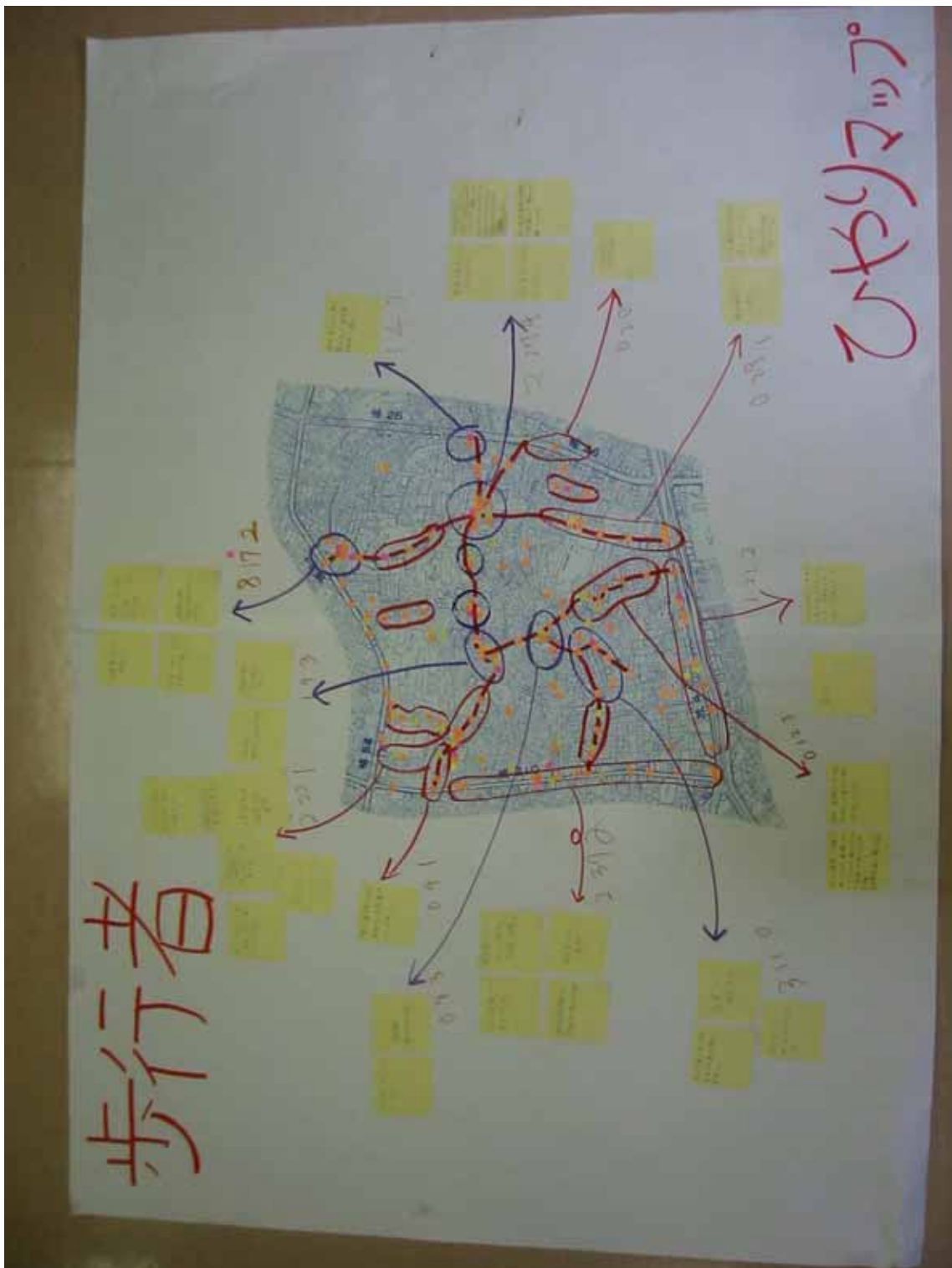


写真2 - 1 歩行者の立場でのヒヤリマップ

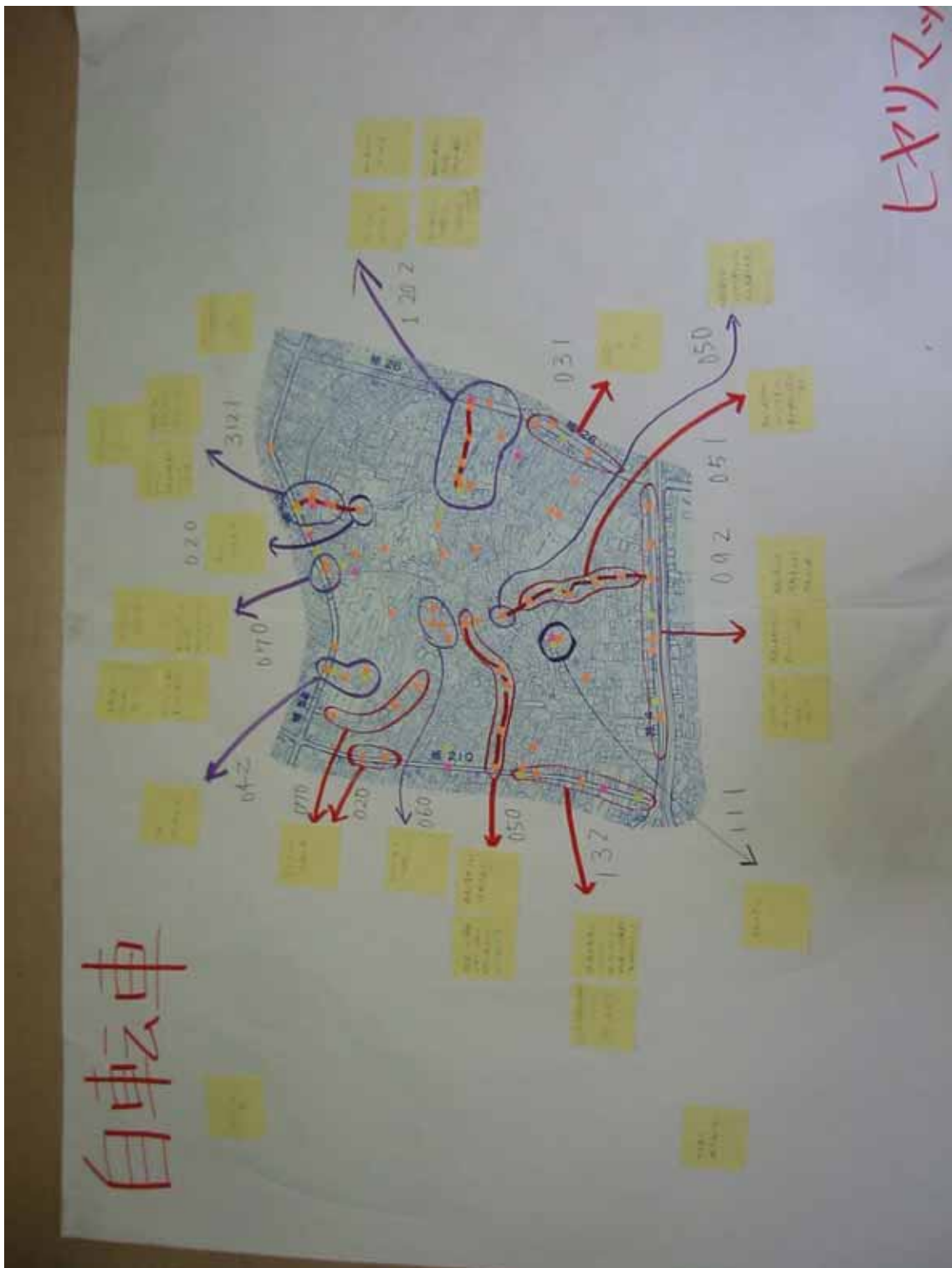


写真 2 - 2 自転車の立場でのヒヤリマップ



写真2 - 3 クルマの立場でのヒヤリマップ

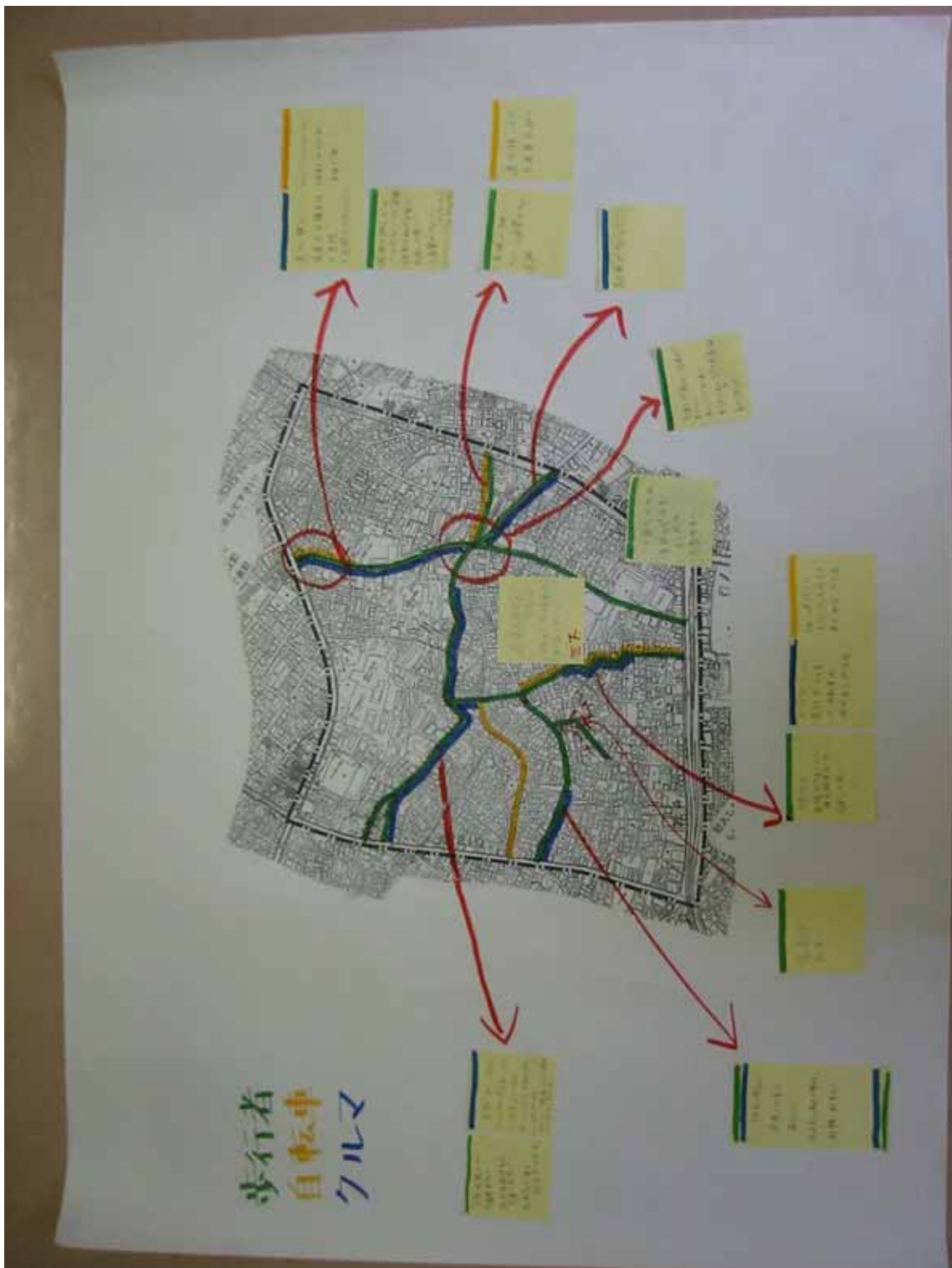


写真2 - 4図 まとめヒヤリマップ



写真 2 - 5 ヒヤリマップ作成風景



写真 2 - 6 まとめヒヤリマップの発表風景

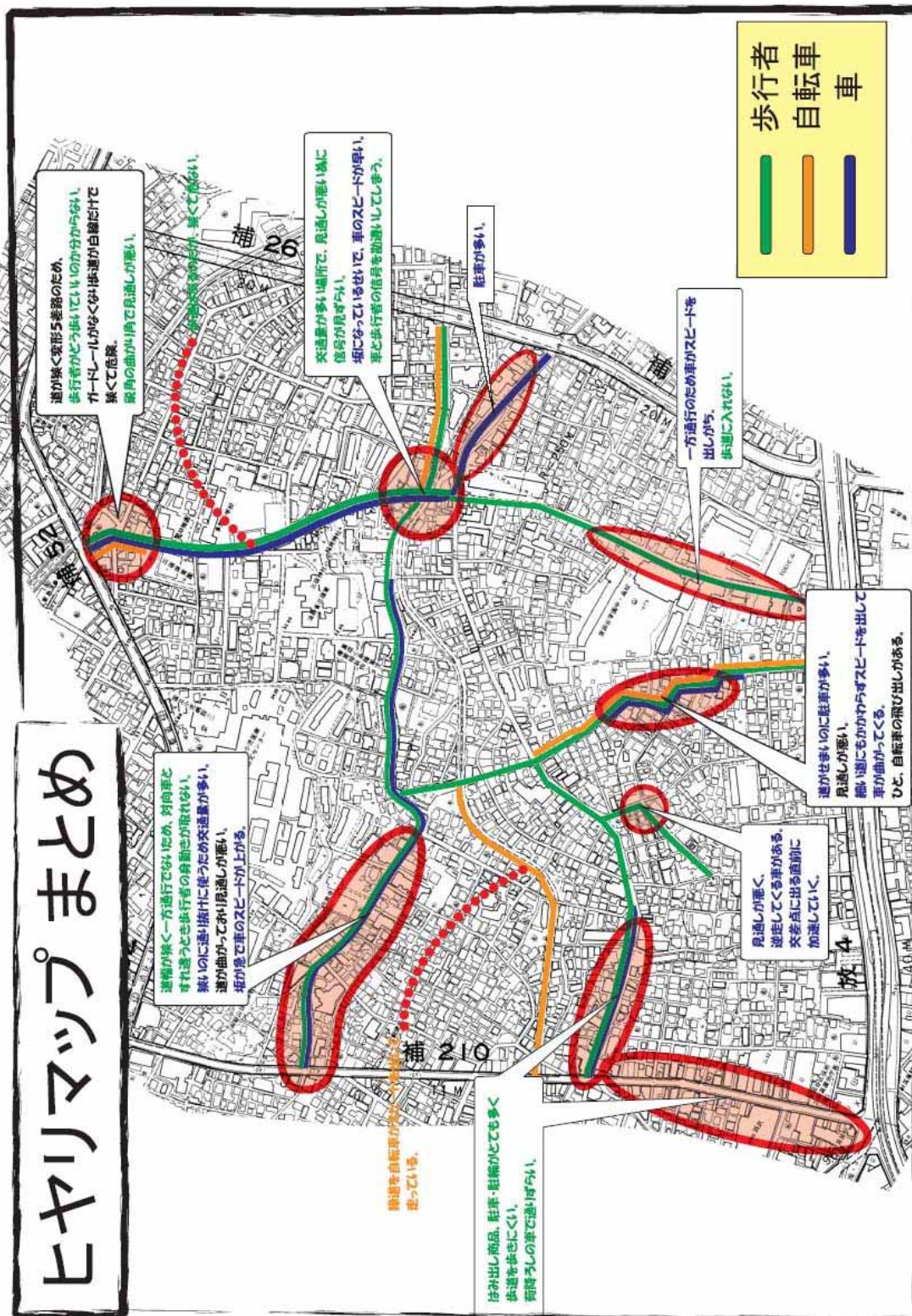


図2 - 1 ヒヤリマップの発表風景

【調査2】まちあるき調査

1. 目的：どこをどのようにしたいのかの意思決定のための検討資料づくり
活かすべき地域資源の発見 問題の共有化 提案づくりへ
地域住民の協働・参加意識の向上
2. 参加者：多種多様な地域住民、ひやりマップアンケート回答者
各協議会を通して、またチラシやひやりマップによって、よびかける
3. 進め方：広範に詳細なデータを集めるのは困難。
ルート、テーマを事前に設定し、実施する。
各グループ、学生のファシリテーターがついてまとめ作業をする。
まち・みちの「よいところ」を探すことを目的とする。
(ひやりマップではまちの問題点(わるいところ)を探す。)
4. 実施概要：休日の午後(ワークショップを2回開催)

内 容：1回目(課題の発見)(ひやりマップ作成)

- 13:00 趣旨説明、スケジュール説明
- 13:30 グループ編成(コース別にA・B・C班)
- 13:40 グループ別まち歩きのためのオリエンテーション(事前学習と注意)
- 14:00 まち歩き出発(案内役付)
- 15:30 集合
まとめ作業(ファシリテーター付)
- 16:30 意見交換
- 17:00 閉会

2回目(ひやりマップ、ナンバープレート調査結果、まち歩き成果を元にした意見交換会)(提案づくり)

- 14:00 各グループまとめ作業(追加修正等)
終了したグループから随時、提案づくりへ。
- 16:00 意見交換とまとめ
- 16:30 最終成果の発表と参加者の感想発表
- 17:00 閉会

5. まちあるき調査の結果

作業 1 日目 (3 / 6 13 : 00 ~ 17 : 00)

A・B・C グループ まちあるき

まちあるき終了後、模造紙にまとめのグループ作業

作業 2 日目 (3 / 13 14 : 00 ~ 17 : 00)

各グループ、まちあるきの追加まとめ作業 完成

まちあるきのまとめをもとに、模造紙に提案づくり検討作業

以下に、これらの作業成果と作業風景をつけます。

< 内容 >

写真 2 - 7 グループ A のまちあるきの成果

写真 2 - 8 グループ B のまちあるきの成果

写真 2 - 9 グループ C のまちあるきの成果

写真 2 - 10 各グループのまちあるき発表風景

写真 2 - 11 提案づくり風景

図 2 - 2 グループ A のまちあるきの成果

図 2 - 3 グループ B のまちあるきの成果

図 2 - 4 グループ C のまちあるきの成果

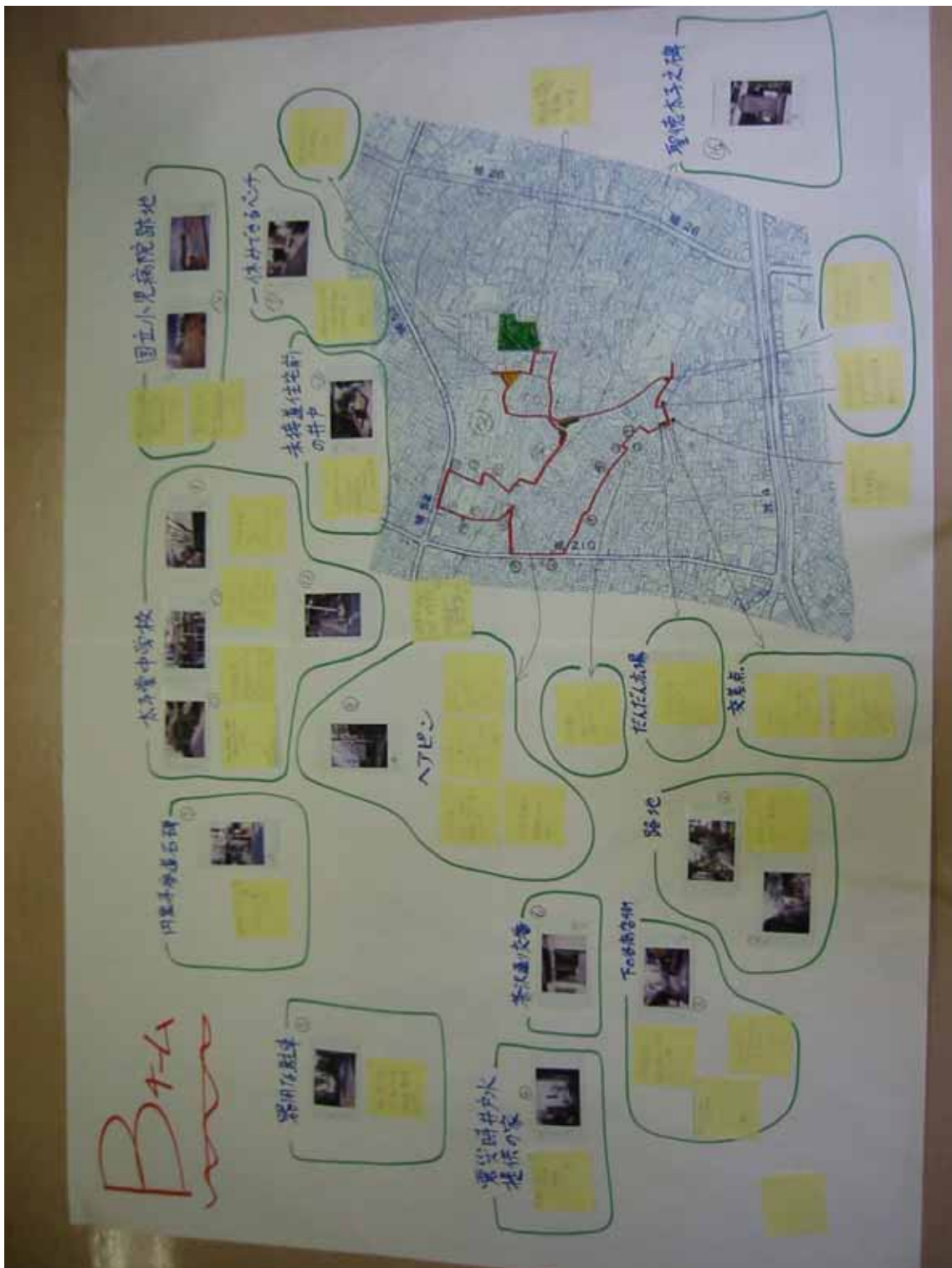


写真2 - 8 グループBのまちあるきの成果



写真2 - 9 グループCのまちあるきの成果



写真2 - 10 各グループのまちあるき発表風景



写真2 - 11 提案づくり風景

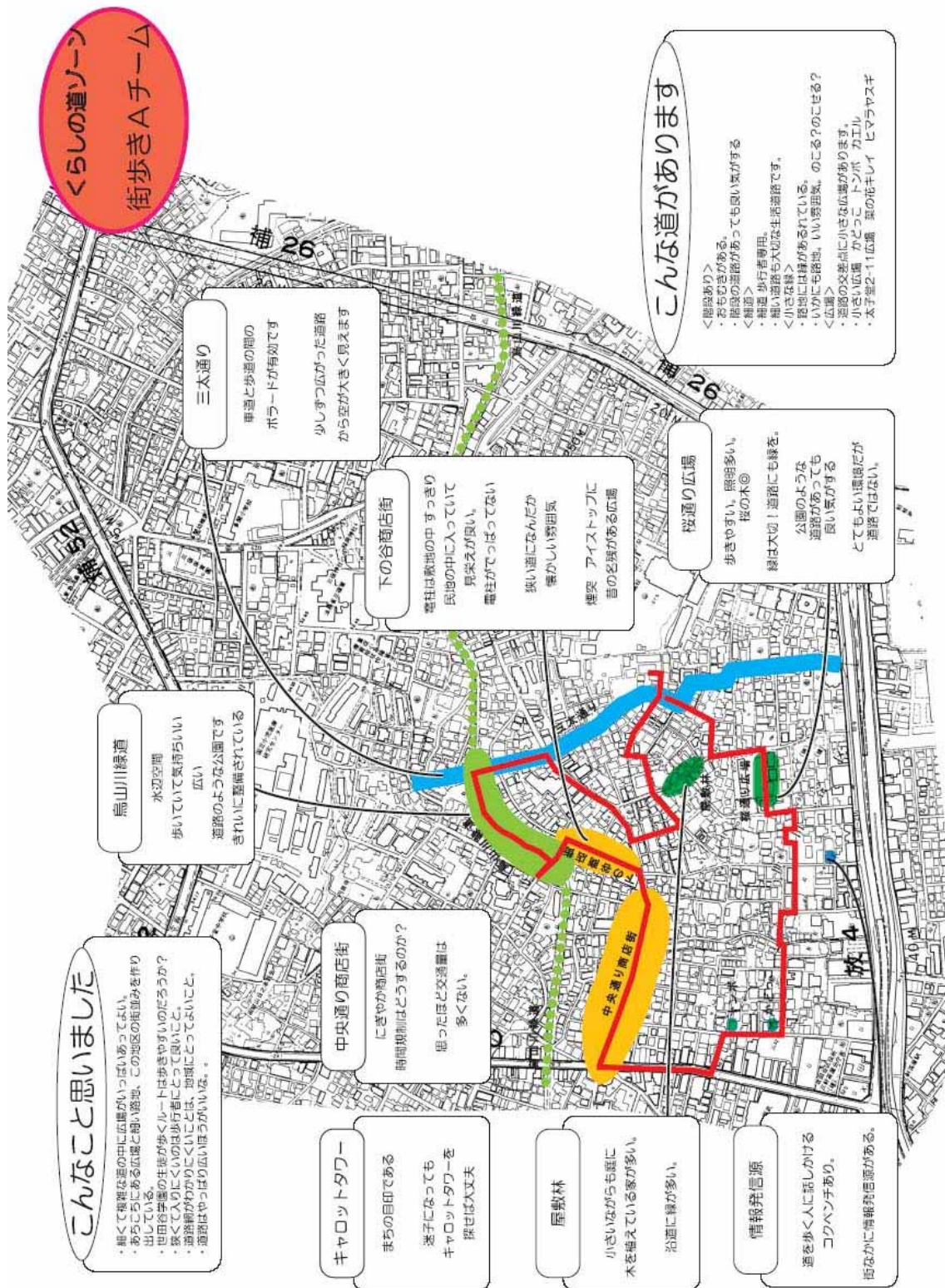


図2 - 2 グループ A のまちあるきの成果

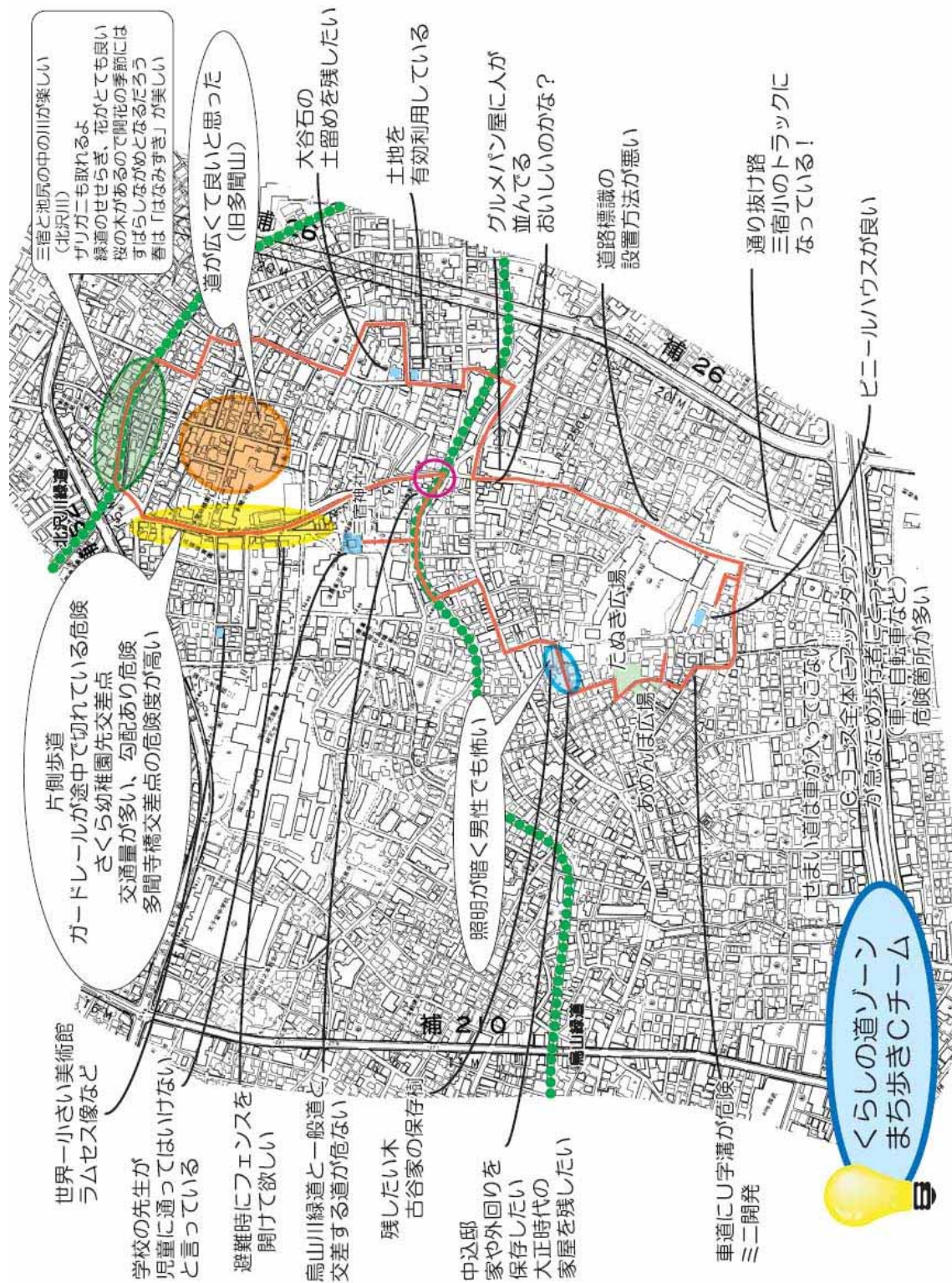


図2 - 4 グループCのまちあるきの成果

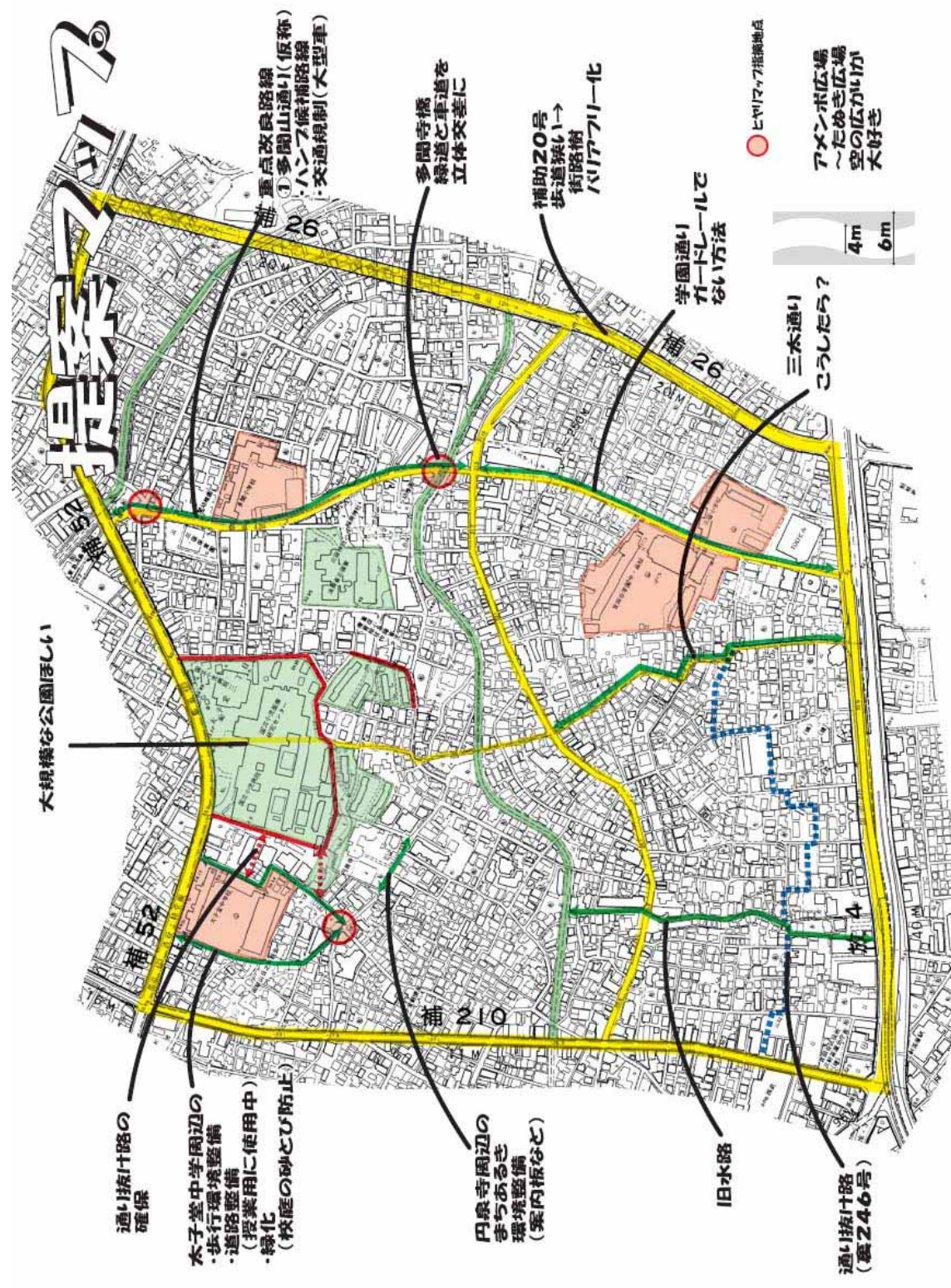
【補足調査】

地区内の公園・緑道と、防災のための道路整備について、情報収集しました。
その成果を以下のようにまとめました。



写真 2 - 12 補足調査の成果

提案マップ



大規模な公園ほしい

通い抜け路の確保

太子堂中学周辺の歩行環境整備
 ・歩行環境整備
 ・道路整備
 ・緑化 (校庭の砂とび防止)

円泉寺周辺のまちなみ環境整備
 (案内板など)

旧水路

通い抜け路(番246号)

重点改良路線
 ①多間山通り(仮称)
 ・ハンズ候補路線
 ・交通規制(大型車)

多間寺橋
 緑道と車道を立体交差に

補助20号
 歩道狭い→街路樹パリアフリー化

学園通り
 ガードレールで
 ない方法

三本通り
 こうしたら?

ヒヤリマップ指摘地点

アメンボ広場～たぬき広場
 空の広がりか
 大好き

4m
 6m

くらしのみちゾーンの整備・改善提案

1. 地域を生かすための基本的な考え方

迷い道は楽しい道

当該地区の道路網は未熟で、細街路・狭隘道路によって構成されている。この結果、地区外からの通過交通進入などが阻止され、自動車の走行速度も抑制されて一定の安全が保たれている。さらに、当該地区は烏山緑道を谷地として最大 10m 程度の高低差があるため、南北方向の交通動線には階段が出現するなどの特徴を有している。

このような地域の道路・交通特性や環境を保持することを基本的な考え方とする。

地域の特徴を考慮する

学校が多い、中央商店街、下の谷商店街があるなども地域の特徴といえ、これらが主催する各種の地域交流活動が、活発に行われている。くらしのみちはこのような活動を支える基本軸であるとの認識に立ち、まち歩きで発見、再認識した地域のよさ、よい場所を加味したうえで、地域が有する特質として交通環境の改善のために積極的に生かすものとする。

改善すべき個所は改善する（ひやりマップから）

しかし、救急車などの緊急車両が入れない、消防車が入れないなどの諸課題には安全・安心、防災の観点からしっかりと対処すべきである。これについては、道路網構成や道路機能の段階構成の考えに基づく新規道路の整備を行うのではなく、「ひやりマップ」などを参考に、重点的な個所を部分的に改善・修復する柔軟な手法で対応する。

地区内は歩行者、自転車の優先ゾーンとする

地区内は、基本的に歩行者、自転車の優先ゾーンとし、自動車のスピードを出させないシステムの導入を図る。自転車は歩行者に対して強者にならぬよう配慮する。

2. 交通政策上の考え方

地域の骨格構造を生かすゾーンシステムの導入

外周を幹線道路（一部未整備）で囲われた地域内の道路骨格は、東西方向の中央通り、南北方向の三太通りと多聞山通り、学園通りで構成され、6つの特徴的なゾーンが形成されていることが「ひやりマップ」の作成から確認された。この構造を生かし、ゾーンシステム（TU規制や時間規制）の導入可能性を探りながら、交通安全向上の施策を講じていくものとする。

段階的な改善施策の提案と実施

地区内には、国立小児病院跡地開発計画や公社の建替え計画および補助 26 の未整備区間整備など、動き出せば地域の交通環境が大きく変わるいくつかの要件があ

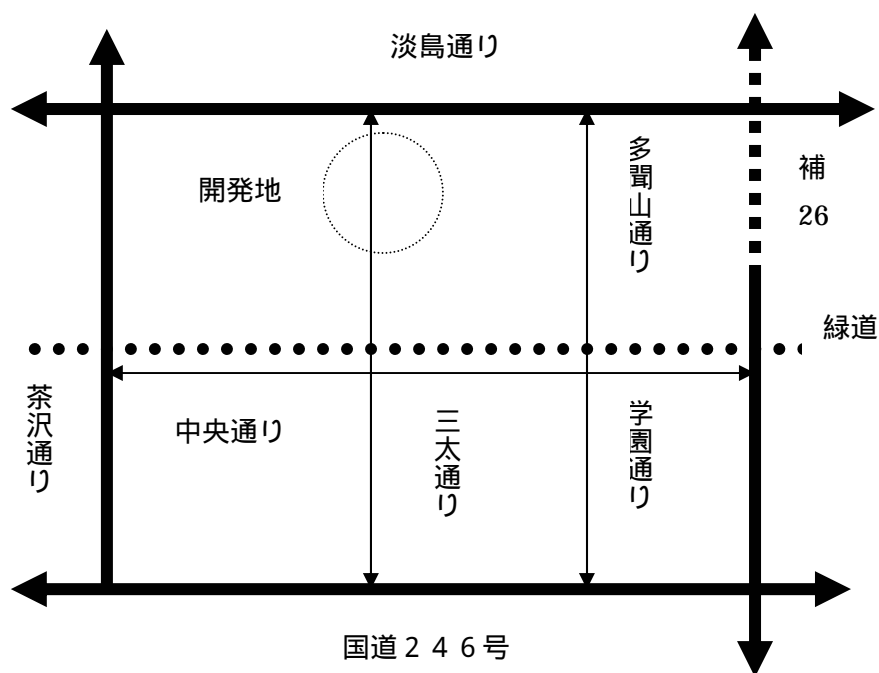
る。これらについて、個々に交通環境の整備・改善策を実施するのではなく、最終的な地区の交通システム像を目標にしながら、段階的に対処（提案と実施）していくものとする。段階の考え方は以下のとおりである。

- 第1段階 現状の道路網での交通改善策
- 第2段階 跡地+公社の外周道路が追加された道路網での交通改善策
- 第3段階 補助26号が整備された時の道路網での交通改善策

重点改良路線・交差点

「ひやりマップ」では、円泉寺通り、多聞山通り、三太通り、多聞寺橋交差点、多聞山5叉路交差点などが重点的改良路線または交差点に上がっており、これらの改善を優先的に行う。

地域の骨格構造（模式図）

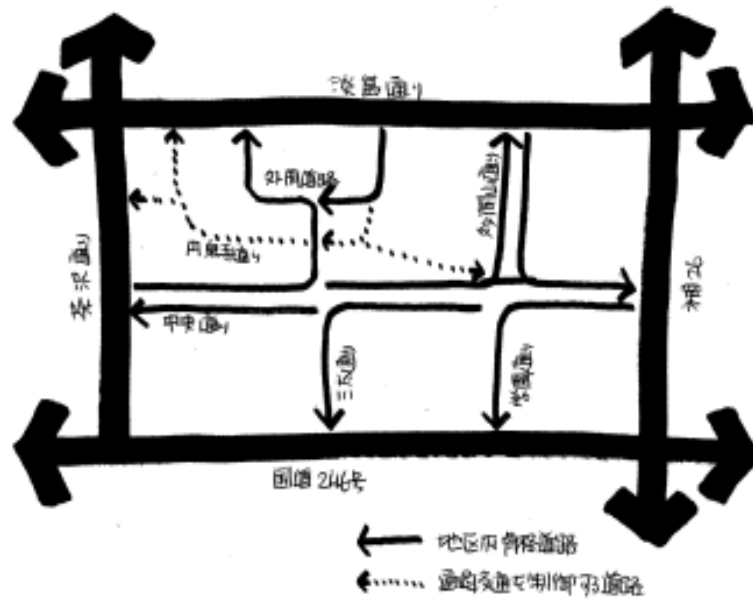


3. 提案事項

ゾーンシステムの提案

地域の骨格構造、現況の交通規制を生かしながら、以下のようなゾーンシステムの提案を行い、通過交通を排除すると同時に地区内の安全性を高める。また、各骨格道路の作りこみによってスピードの抑制や歩行環境の向上策を講じる。

ゾーンシステムの提案



段階別整備項目（重点改良路線）

	円泉寺通り	多間山通り	三太通り（北）
機能	・現在は通過交通路になっているが、地区内の優良な歩行環境を持った道路に転換すべき道路	・補助 26 号整備までは外周道路の代替路線と位置づけられる道路。補助 26 号完成後は歩行環境整備が必要な道路	・南北方向の整備路線として地区計画で位置づけられた道路。 ・跡地の避難地につながる避難路としての位置づけがされている。
第 1 段階	・歩行者優先路への転換策（環境整備）	・スピード抑制策（ハンプ、狭さくなど） ・大型車通行規制 ・危険な交差点の改善	・危険な交差点の改善
第 2 段階	・緑地等と一体化した跡地外周道路との連結方策		・ゾーンシステムに対応した交通規制 ・跡地外周道路とリンクした交通規制策
第 3 段階		・歩行者、自転車優先路としての改善整備	

それぞれの優先路線づくり（ネットワーク）

歩行者、自転車、自動車それぞれの交通手段にとっての優先路線づくりを行う。

歩行者系路線の例：裏 246、緑道、旧水路によって商店街、緑、広場などを結ぶネットワークを構築する。

その他路線のつくりこみ

- 三太通り（南） 地区計画による 6 m 幅員道路整備
一方通行路
歩車共存（スラローム、クランクなど）
- 補助 2 6 号 バリアフリー対策
駐停車禁止策
- 学園通り（南） ガードレールに変わるデバイスの検討

4 . 交通社会実験（提案）

- イ）円泉寺通りの歩行環境整備のための定点観測
- ロ）学園通り（南）のデバイス変更実験
- ハ）多聞山通りの走行スピード抑制実験
- ニ）中央通りの荷捌き車対策
- ホ）路地沿いの花いっぱい運動
- ヘ）オープン・カフェ（＝茶屋）

4. 活動の成果

協議会側での積極的活動により、国立小児病院跡地開発及び都住宅供給公社の建替え計画を想定した地区全体の交通動線の事前検討が出来た。また、三宿を含めた地区全体としての交通ゾーンの理想型も見えてきた。地先道路の危険な箇所も広い視野で再認識できたこと、重点的に早期に解決しなければならない地点も明確になったことは、今後のまちとしてのコンセンサスに重要な結果と思われる。これから始める区と協議会における「周辺まちづくり計画」の見直し作業などにも、この「くらしのみち」を盛り込んだ、「住民にとっての災害に強く暮らしやすいまちづくり」が期待できる。

5. 今後の展開

さらに今後も今年度の成果の延長で、さらなる議論、検討を行っていく予定である。今回の活動まででは実現しなかったが、重点的に整備が必要な路線を限定して具体的な仕組みを考察する必要がある。

6. 活動のポイント

本活動における人材、資金調達、ネットワークや支援体制について以下に示す。

・活動の人材

太子堂2・3丁目まちづくり協議会を中心に、隣接の三宿まちづくり協議会にも参加を呼びかけた。その延長で三宿まちづくり協議会も独自にこの活動を行ったが、それぞれに今まで積極的活動を行ってきたので、お互いに連携を取りながら広い範囲での検討が短時間に可能となったと思う。また、区の職員の参加、専門家の参加もたいへんなパワーをもたらしたと思われる。

・活動のための資金調達

普段の活動は、会費収入・行政補助が見込まれないので討議だけに終わってしまっている。一方、地元住民の自主的活動に対する補助の無い地区指定の事業もあるので、調査費などによる補助は、短期的に活動を活発化できるのでありがたいと思う。

・活動のネットワーク・支援

太子堂2・3丁目という狭い範囲であるが、長年にわたる協議会活動を行っている。今まで関わっていただいたことのある専門家、今回のテーマに沿った専門家、その関連の大学生などをはじめ、行政の情報による講師の紹介などがあった。